

令和6年度第2回史跡根城跡整備活用検討委員会 議事録

日時 : 令和7年2月15日(土) 10:00～11:40

場所 : 八戸市博物館体験学習室

出席者

委員

出席6名 工藤竹久委員長 北野博司副委員長 熊谷隆次委員
倉原宗孝委員 宮野則彦委員 野沢浩司委員

指導・助言

浅田智晴総括主幹(青森県教育庁文化財保護課)

委員会

社会教育課 渡参事

博物館 小保内館長 佐々木副館長 市川主査 高橋主事 中村専門員

設計支援 有限会社ウッドサークル

次第

1. 開会

2. 会議

(1) 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について

(2) 史跡根城跡環境整備事業のスケジュールについて

(3) その他

6. 閉会

会議資料

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 委員名簿

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 席図

資料1 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画

資料2 史跡根城跡環境整備事業のスケジュール案について

八戸市博物館条例抜粋・八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会規則

5. 会議

(1) 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について

・令和6年度事業報告 本丸復原建物改修工事

○宮野委員：納屋3の工事について質問をさせていただきます。この工事については今春ご連絡をいただき、工事案に意見をさせていただきました。具体的に言うと、①掘立柱建物の地際部分を銅板巻きし、その上に防水防湿シートを巻くこと、②銅板と防水防湿シートの上端をコーキングすること、③銅板・防水防湿シートの上端は土間仕上げ面から10 cm上にすることの3点をご提案しました。しかし、会議資料の完成写真をみると、この通りに工事されていません。これについて説明をお願いします。

◎事務局：ご質問ありがとうございます。

まず、今年度実施した納屋3の特徴と今年度の工事内容について説明します。納屋3は伏屋式切妻屋根の竪穴建物で、屋内には9本の掘立柱があります。令和4年度に床面と腰壁の三和土改修を目的に工事着手しましたが、三和土を解体したところ、土中の柱下端が腐朽していることがわかり、工事を中断しました。

今年度は予算を獲得し、工事を再開しました。工事の内容は、柱下端の腐朽部分の切断と根継、そして工事後の腐朽対策として柱地際の銅板巻き・防水防湿シート巻きなどを行うというものです。宮野先生からいただいたご質問は、この柱地際の部材の収まりに関する内容の確認です。

先生からもお話しいただいたように、今春工事を始める前に、宮野先生にも事務局が作成した工事図面をご覧いただきました。そして、いただいたご意見に合わせ工図面内容を変更し、工事に臨みました。しかし、結果からお話しすると、柱下端の腐朽が当初予定よりも広範囲に及んでいたため、この工事図面通りに施工できませんでした。

いただいたご質問に順に回答します。まず③銅板・防水防湿シートの上端を土間仕上げ面から10 cm上にすることについてです。これは会議資料の写真の通り、当初予定よりも高い位置での収まりになりました。この理由は先ほどお話しした通り、柱下端の腐朽範囲が当初予定よりも広がったためです。腐朽部分の切断位置は、安全面を考慮し、より高い位置にしました。また、継手を上手く作れなかったことも銅板上端の位置が高くなったことの理由です。切断した既存の柱材はクリです。クリは堅く、電動工具を使っても切断をするだけでも一苦勞でした。このため合い欠きによる継手が造れないという判断から、既存の柱の腐朽部分を水平に切断し、この下に同じく上面を水平に切断したクリの新材を合わせました。既存材と新材の継目部分には銚を三本打ち、継手の代わりにしました。また、この銚を隠すためにも、銅板

や防水防湿シートの上端の位置が当初予定よりも高くなりました。

次に①掘立柱建物の地際部分を銅板巻きすることと、その外に防水防湿シートを巻くことについてです。宮野先生からは、銅板巻き後に防水防湿シート巻きをするというご提案をいただきましたが、実際にはこの逆に、防水防湿シート巻きをした外に銅板巻きをしました。これは施工業者との協議によるものです。ご提案をいただいた防水防湿シートを外にする収まりだと、シート上端をコーキングしても数年でシートが剥がれるという結論になりました。

最後に②銅板と防水防湿シートの上端をコーキングすることですが、これは実施しています。

○宮 野 委 員 ： 会議資料の写真では良く分からないのですがコーキングはしているのですね。

◎事 務 局 ： コーキングしています。また、写真の通り、柱材はクリの丸太材です。普通に銅板を巻くと、銅板と丸太の表面に隙間が生じますが、これも銅板をハンマーで叩いて隙間を無くしたうえでコーキングしています。

○倉 原 委 員 ： 銅板とシートを巻く順番を逆にしても問題はないのでしょうか。銅板の効果が出なくなるということはありませんか。

◎事 務 局 ： 問題ありません。シートで包む目的は木口からの水分を断つことです。銅板を巻くことの目的は地際からの水分を断つことです。施工順が逆になっても、両方の目的は果たせます。

○北 野 委 員 ： 銅板巻きの考え方についてです。根継部分の銚を隠すために、銅板の位置が高くなったというお話しでしたが、根継部分は見せてしまっても良いという考え方もあったのではないのでしょうか。この方法を選ばなかったのは、なにか構造面などでの理由があるのでしょうか。

◎事 務 局 ： 構造面での有利不利はありません。継手部分の見た目が不細工になるのでこれを隠したいという判断から銅板位置を高くしました。既存の柱と根継をした新材はともにクリの丸太材です。丸太材と言っても円柱のようにきれいに成形したものではなく、採れたままの丸太材なので、当然、柱表面の形状はデコボコです。デコボコな既存材とデコボコな新材の合わせ目は、言うまでもなくきれいには揃いません。これを隠す意味でも銅板位置を上げるのが適当だと判断しました。

○北 野 委 員 ： 銅板巻きには地際の水分対策だけでなく、銚を隠す狙いがあるということについてはわかりました。

◎事 務 局 ： 柔らかい木なら、銚を隠すために色々細工ができたのかもしれませんが、クリの丸太材なのでそういうこともできませんでした。

当初予定から収まりが変更になることについて、施工中にご相談できず、申し訳ご

ありませんでした。ただ、材の硬さや、既存の柱の腐朽範囲などを考慮すると、やはり当初予定案の通りには施工できませんでした。

○宮野委員：銅板の位置が高いのはこれで良いのでしょうか。

○北野委員：復原建物の工事で、柱の地際に銅板を入れる場合は、可能な限り低くします。

◎事務局：復原建物の新築工事なら、当然銅板の上端位置は可能な限り低くします。しかし、今回の工事は改修工事です。また、根継の継手部分を隠したいという狙いから銅板上端の位置が高くなりました。

○宮野委員：継手を隠すという狙いがあるのなら、しょうがないですね。わかりました。

○工藤委員長：難しい工事でしたね。検討や議論の結果は記録に残しておいてください。また、工事後の経過観察も続けてください。

◎事務局：承知しました。

・令和6年度事業報告 本丸主殿改修基本設計

○北野委員：復原建物の温湿度測定を始めたというお話しでしたが、これまで復原竪穴建物やその周囲に菌類・藻類・塩類が出るということはありませんでしたか。

◎事務局：根城には5棟の竪穴建物がございますが、この土間・三和土や、軸組などの構造材にカビやコケが出たことはありません。

ただし、構造材ではなく、建物内の復原遺物にカビが出たことはあります。鍛冶工房と呼んでいる一番深い竪穴建物内に、復原した木製の棚がありますが、これにカビが出ました。コロナが流行り出した頃、竪穴建物への入室を禁止するために、扉を常時閉めている期間がありました。その二週間後ぐらいに屋内を点検したところ、木製の棚に白カビが出ていました。ただ、これも換気をしたら、すぐに消えました。掘立柱建物も、構造材にカビやコケが出たことはありません。ただ、主殿の側廻りの建具には白カビが出ます。これは乾拭きや箒で簡単に落ちるものです。

○北野委員：他の遺跡だと、地下水が高くて地面が乾いていると塩類が上がってきて白くなることがあります。根城では、こういうことは無いですか。

◎事務局：ありません。

○北野委員：菌類も、最近は細菌チェッカーで簡単に計測できます。台所用品として簡単に購入できますから、こういうものでチェックする必要もあると思います。建築と展示の設計をやっている主殿もそうですが、こういう課題の洗い出しが必要です。現状の有機物質の出方を調査し、対策できるようにしてみてください。また、データをとる場合は、専門家の方に評価していただくことも必要です。

◎事務局：検討します。

・令和6年度事業報告 主殿展示改修ワーキング会議

○倉原委員：改修後の主殿でも展示や解説を行うと思います。また、博物館の改修も検討されているそうですが、それぞれの展示の住み分けを教えてくださいませんか。

◎事務局：博物館の改修は、来年度から着手予定です。常設展示の改修も予定しますが、根城跡に関する展示は同じスペースで行いたいと考えています。展示内容は現在検討中ですが、出土遺物の他に図面・模型・映像を使いながら、復原建物がある本丸にも足を運んでいただけるような展示を行う予定です。また、現在の常設展の中世コーナーは根城の紹介に特化しすぎています。これについては、もう少し解説の範囲を拡げ、中世の八戸地方がどのような状況だったのかや、村の暮らしのことなどについても解説したいと考えています。

次に主殿の展示改修ですが、こちらも現在検討中です。主殿では出土遺物を展示できません。こちらでは復原建物を活かしながら、現在のように複製品と人形による場面再現を中心とした展示・解説になると考えています。

ともに展示内容は現在検討中ですが、なるべく相互に来館者・来場者に足を運んでもらえるような内容を構築していきたいと考えています。

○倉原委員：わかりました。

○工藤委員長：わたしからも主殿改修工事について質問をさせて下さい。一言で主殿改修工事といっても、その内容は建物の工事と、建物の中の展示の工事に分かれていますと思います。この二つの工事は専門性が違うように思いますが、設計と工事をどのように進めていく予定なのでしょうか。

◎事務局：ご指摘いただいた通り、検討内容は建築改修工事と復原展示改修工事という二つの範囲になります。一般的にこうしたリニューアル工事の場合、建築と展示の設計支援業者をそれぞれ入れ、設計をしていきます。しかし今回は、文化庁からの指導もあり、建築と展示の改修設計を一体で進めております。実際の工事も一体で行うか、あるいは二つの工事に分けるのかは、今後の検討によります。少なくとも設計は建築と展示に分けずに進めていきたいと考えています。

○工藤委員長：わかりました。

・令和7年度事業計画 史跡根城跡公有化に係る調査委託

○工藤委員長：公有化に向け、地権者へ意向調査を進めていると思います。住民の皆さんの反応はいかがでしょうか。

◎事務局：用地買上については概ね好意的なご意見をいただいています。一方

で、住み慣れた土地なのでずっとここに居たいという方もいらっしゃいます。

○工藤委員長：わかりました。

・令和7年度事業計画 史跡根城跡昆虫相調査等業務委託

○北野委員：昆虫相調査を行うというお話しでしたが、これについて教えてください。トラップの回収頻度はどの程度に考えていらっしゃるのでしょうか。また、昆虫の同定や結果の評価はどなたが行われるのでしょうか。

◎事務局：昆虫相調査は業者委託で行います。トラップの回収頻度は1ヶ月に1回とし、結果の同定も同じ業者をお願いする予定です。

○北野委員：本丸の復原建物のような環境だと、いくらでも虫が採れますよね。

◎事務局：現在も復原建物内にトラップを置いています。やはり多くの虫が採れます。なお、来年の調査は同定のみを目的とします。駆除や対策は令和8年度以降に行う予定です。昆虫相調査の結果は、令和8年度に予定している主殿改修工事の実施設計に反映します。

○北野委員：虫が全部悪いわけではありません。文化財害虫を特定し、それらについて対策を考えるということが重要です。

○倉原委員：近隣で昆虫相調査に協力してもらえそうな大学はありませんか。

◎事務局：文化財害虫を専門としている大学は近隣にはありません。来年1年は、どのような昆虫が出るのかを見たいと思います。また、結果によっては、専門の研究機関・業者・大学にお願いし、改善を目指します。

現時点で、復原建物や復原遺物に関する大きな虫害は確認されていません。強いて言うなら、主殿など板葺の建物にゴキブリが出ますが、その小屋裏で糞害があるくらいです。

○北野委員：活用とうまく結びつけられるように、今後取り組みを工夫していただけだと思います。

○宮野委員：この昆虫調査は、建物の中だけを対象にしているのでしょうか。

◎事務局：トラップは屋内のみに設置します。具体的に言うと、復原遺物が屋内にある復原建物を対象に、それぞれ適当数のトラップを置きます。

○宮野委員：以前、本丸を見させていただいた時に、どこかの建物の屋根にシバンムシがついていたように思います。屋内に被害はありませんか。

◎事務局：今、宮野先生からご報告いただいたのは、奥御殿板倉の屋根板を押さえる栈木の先端が、虫害を受けているというお話しです。ご意見をいただいて以降、本丸内各所の建物を見ましたが、それ以外の建物の構造部材や建具・壁などに同様の被害はないと思います。このあたりのことについても来年調査をお願いする業者

と情報共有しながら進めたいと考えています。

○工藤委員長：トラップは見学者からも見えるところに置くのでしょうか。

◎事務局：部屋の隅に隠さずに設置する予定です。

・令和7年度事業計画 史跡根城の広場開場 30 周年記念シンポジウム

○倉原委員：10月にシンポジウムを開催するというお話ですが、これはどのような内容になるのでしょうか。

◎事務局：根城築城に関する史資料の情報の齟齬をテーマにシンポジウムを開催する予定です。

近世史料では、根城というお城は建武元年、つまり西暦1334年に南部師行というお殿様によって築城されたということになっています。しかし、根城跡の発掘調査で出てきた遺物を見ると1300年代前半の遺物のごく少数です。根城に多くの人々が集住していただろうと考えられる程の遺物量が認められるのは1300年代の終わりくらいからです。このあたりのことを話題に市民向けのシンポジウムを開催します。

○倉原委員：わかりました。

（２）史跡根城跡環境整備事業のスケジュール

・主殿改修工事

○工藤委員長：スケジュールの変更案について説明がございました。主殿改修工事は令和11年度で終わるという計画ですね。

◎事務局：おっしゃる通りです。令和11年度で改修を終わる予定です。

○工藤委員長：熊谷委員から主殿改修工事について補足はございますか。

○熊谷委員：主殿改修に関するワーキンググループに参加していますが、有意義な検討ができていると感じています。前回会議では現在主殿と呼んでいる建物の名称を表御殿に変更すべきだという意見が出ました。これは当時の地方名に建物名を変えることなので、とても大きな変化だと思います。また、最近根城に関する新史料を発見しました。近世の史料ですが、廃城後の根城の変化が分かる良い史料です。改修後の解説に反映していきたいと考えています。

○工藤委員長：わかりました。

・保存活用計画検討

○工藤委員長：保存活用計画改訂の背景についてもう少し説明をいただきたいです。

◎事務局：具体的に改訂が必要な箇所は、本質的価値の見直しです。本質的価値を見直すことにより、今後の復原建造物などの改修スケジュールを見直したいと考

えています。

令和元年度に策定した整備基本計画では、全ての復原建造物の改修を一巡するという想定でした。その後、直近の社会情勢の影響もあり、当初の計画通りには改修が進まないという状況になりました。このような背景から、文化庁からは、本質的な価値の見直しと、減築に関する検討などを行うべきであるという指導をいただきました。

○北野委員：ご説明いただいたように、人口減少や自治体の体力低下など、史跡の維持が危ぶまれるような状況になってきています。復原建造物などの改修も、当然長寿命化を検討すべきですし、あるいは場合によっては減築もやぶさかではないと思います。ただ、減築を検討する場合は、管理の都合を優先するのではなく、保存活用計画の方針や史跡整備のコンセプトとの兼ね合いの中で慎重に判断するようにしてください。減築は、かなり大事な問題です。現時点で、具体的にどの建物を減築するのかは決めているのでしょうか。

◎事務局：まだ館内協議の段階です。

○北野委員：そうですね。そこはぜひ入念に検討して下さい。管理や維持が難しくても、遺跡の内容から考えると、大事な施設であり、ぜひ残したいというのものもあるでしょう。そのような議論を重ね、検討をしていただきたいです。

○工藤委員長：ありがとうございます。なかなか難しい時代になってきましたね。青森県さんから事業全体の進め方についてなにかお話はございませんか。

○青森県：近年の補助は非常に厳しい状況です。その中でも必要なものについては必要であるときちんと説明を続けることが重要です。また、事業計画の前倒しについても検討をしてみてください。

（３）その他

・事業の進め方について

○北野委員：改修工事では、実際に施工してみると様々な問題が生じてくることもあると思います。課題解決の手法には様々な選択肢や可能性があります。また、どのような価値を大切にし、その手法を選択したのかなど、結論に至るまでの議論を記録として残さなければいけません。納屋３の銅板の露出は、見学者になぜこうした手法を選択したのかを伝えるサインや解説が必要です。また、この手法がベストだったのかという検証も後々行わなければいけません。こうした場合には、時間がない中でも委員長や関係委員に変更の確認や了解を得て、進めていただきたいと思います。

◎事務局：承知しました。

・次回会議

◎事務局：次回会議は9月を予定しております。

以上